

障がいある人や、ひきこもり不登校の人たちとの明るい社会をつくるために

# わんぱく学園ニュース

平成27年10月／平成27年11月号 No.176

季節に流される花もあります。

その流れにじっと息を潜める花もあります。

草丈は50センチぐらい、小さな茎から想像できない大きくつやのある葉を広げます。

フキに似ていても鮮やかなつやがあり、

色あせていく景色に淡い香りと黄色の彩りを残していく花・・・そう・・・

石路（つわぶき）の花が咲く頃\_\_\_\_\_。

花ことばは“困難に耐える”

かげりゆく 秋の夜長の 月映し

真夏の陽射しにも、凍てつく冬の風の中にあっても、耐えて 耐えて  
そそがれる月の明かりを映すように どんな困難にもうつむくことなく、  
凜（りん）としてかほるつわぶき・・・

理念を流されることなく、耐えて耐えて 時を巡ってきた・・・  
そんな過ぎ去りし道を振り返り詠いました。 ～土江 和世～

害から「がい」へ ～気付きの大切さ・固定概念のこわさ～

『平成27年11月11日・島根県中学校校長会講演』から抜粋

～土江和世～

長男広の誕生・・・そして「わんぱく学園」創設へ

私は障がいをもつ子の一母親です。その子は“広”といいます。

私はこの子をこよなく愛し、そして、誇りに思っています。

なぜなら、この子からたくさんのことを学んだからです。

40年前、私が幼稚園の教諭をしていたときのことです。

私にはお腹に7ヶ月になる長男がおりました。

ある土曜日、園児たちが“先生！せんせい遊ぼう！”ととびついてきました。

私は、思わず足元にあった絵本が入ったダンボールに足を取られて、バッタのように3M余りとび、  
お腹を強打しました。そのとき、へその緒が広の首や肩に巻きつき、生まれたときには、仮死状態  
でした。予定日を2週間もたって生まれた長男・・・しかし、この世に生を受けたはずなのに、声  
をあげ、泣かない広、どれだけ時間が経ったのでしょうか・・・もうろうとしていた私には、考えもつか  
ない事態が待っていました。

ようやく産声をあげた長男、全身紫色をしていました。

それでも体重は4キロ近く、かわいいやんちゃ坊主の誕生

障がい・・・その当時の私には、とっても遠い世界のこととらえていました。

“隣家の誕生年月日が同じ赤ちゃんは首がすわっているのに、どうして広は首がすわらない、足をはねかえす力のも弱い・・・” そんな我が子に「もしかして小児麻痺？」と思い、大きな不安におちいり、不安さから毎日泣いていた私、県内外4箇所の病院を夫と長女も一緒にかすかな希望をもって訪ねた私たち\_\_\_\_\_。どの病院でも、「重度の知的障がい」という同じ診断でした。しかし、夫は初めから受け入れていました。“我が子を親が信じなくて一体誰が信じるんだ!? 誇りをもって育てて行こう!”と語ってくれました。

広が知的障がいであることがはっきりしたそのとき、逆に私の生き方、いわゆる子育ての方針もはっきりしたのです。39年前、法的整備もままならない時代、県内にも途方にくれた母親があちこちにいました。

地域から変えていくこと。その地域に必要なものがなければ、自分でつくればいい・・・まずは行動すること。行動しなければ何も変わらないのではと、私は同じ悩みをもつ母親と、日赤病院や、児童相談所で集まりを持ち、励ましあいました。

私を突き動かしたのは、自責の念もありました。でもそれ以上に、こうした子どもたちが社会で平安に生きていけるように、そんな社会を作らねば・・・という強い思いでした。そうしなければ、親亡きあと一体どうやって生きていけばいいのか? 『そう! 明るい共生社会を作ろう!』と思ったのです。それには、居場所を作ることが一番大切・・・と 当時平田市の障がいある子どもさんがいるご家庭36軒一軒一軒訪ね歩きました。

学園の名前も公募で決めました。誰しも我が子が“わんぱく”であって欲しい・・・と願うのではないのでしょうか? このわんぱく学園・・・校舎があるわけではありません。自然が学校なのです。毎週日曜日午前、障がいある人たちが集まり、色々な『遊び=活動』をとおして、社会と交わっていく居場所なのです。

斐伊川でのいかに遊び、宍道湖一周、無人駅の清掃、愛宕山のゴミ拾い、竹の子掘り、粘土あそびなど・・・。出席も取らず、だれ一人来なくても待ち続ける・・・そんな活動を28年間続けています。中には不登校が治った児童生徒もいました。

害からがいへ 気付きの大切さ

広の上に姉がいます。

その姉が まだ2歳半のときでした。

友だちから「広ちゃんはバカだネ 何も出来んネ」との声や弟をいじめられている姿に、涙にurenながら、“たった一人の単なる可愛い弟”と言いきった姉がいます。

“お父さん お母さん 気付かないの?”

“えっ!・・・何が・・・”

“広ちゃんて、害虫さん!? だって障害者は『害』ってかくでしょう?”

広ちゃんは害虫さんじゃないよ、あんなにだれよりもきれいな心をもっているのに・・・“

私たち親はまるで“頭をガーンと殴られたようなショックをうけました。

いろいろなことに慣れきっている私たち、あたり前とおもっている中に大切なものがあることに真から気付かされました。そう! みんなシグナルを必死に発信しているのです。

それに気付かなくなっている私たちがいます。そう・・・気づき。“固定概念”のこわさです。

世の中の平和は弱者と強者が共に助け合うところから生まれるのではないのでしょうか?

最後に私の活動を支えてくれた大切な言葉を皆さんに送りたいのです。

それは亡き夫が残してくれたことば

“この子なくしては到底経験し得ず”ということばです。

～土江和世プロフィール～

1947年2月15日旧平田市生まれ。

1969年～2001年 公立幼稚園教諭、教頭

1988年 わんぱく学園（障がい者園児、児童、生徒の学園）創設

2003年5月宍道湖ネイチャーランド・自立支援ショップ「みずわ」開店

9月バンドどりーむ（障がい者と健常者が共に音楽を楽しむ場）結成

11月アトリエ「おちらと」創設

（障がい者と健常者の交流サロン、陶芸する場）

2005年 島根県立美術館にてわんぱく学園主催“アール・ブリュット展”  
開催

2008年 レコードレーベル設立

2009年9月NPO法人「サポートセンターどりーむ」を設立  
現在に至る。

---

## お知らせ

第5回 チャレンジドアートエキスポインジャパン2015

第8回 ゆめのつばさコンサート

開催決定！！

オランダ王国大使館、島根県商工会議所連合会、わんぱく大使館との共催！

オランダから34点のアート出展、講師来日、世界への道が開けました！

於：ビッグハート出雲

第4回 東京アートコレクション2015 開催

2015年10月21日(水)22日(木)

にほんばし島根館

---

集合場所の地図です



(つわぶき)

アトリエ「おちらと」

わんぱく大使館



わんぱく学園 だれでも参加できるよ 出席もとらないからいつでも  
その日に集合場所へ一人でも お友だちもつれてきていいよ！！

10月&11月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

10月11日(日)わんぱくカフェ

～秋の野だて、古墳を囲んで青空の下で～

場所：アトリエ「おちらと」 会費 100円

担当：土江和世、常賀信寛

10月18日(日)エキスポを見に行こう

～オランダからアートが来るよ！～

場所：ビッグハート出雲・現地 10時集合

10月25日(日)一畑薬師へ行こう

～ゆいしょある目のお薬師さん、お礼に清掃して帰ろう～

準備するもの：おにぎり、お茶 \*ゴミ袋学園で準備します。

場所：アトリエ「おちらと」に集合して、出発

担当：土江和世、坂根玄明

11月8日(日)愛宕山に紅葉狩りに行こう！

～愛宕山、紅葉の下でお弁当！～

準備するもの：おにぎり、お茶、\*ゴミ袋は学園で準備

場所：アトリエ「おちらと」に集合して出発

担当：土江和世、山口恵子

11月15日(日)わんぱくスポーツ大会

～スポーツの秋、バトミントンで汗を流そう！～

場所：アトリエ「おちらと」前駐車場 会費 100円

担当：坂根玄明、土江和彦、

11月22日(日)わんぱくカフェ

～秋の味覚を味わっておいしくお茶を飲みましょう！“

場所：アトリエ「おちらと」

担当：土江和世、常賀信寛

11月29日(日)雲州平田駅、構内や駅前をきれいにしよう！

～いつもお世話になっている平田駅、みんなで感謝をこめて清掃～

準備するもの：ほうき、ちりとり、\*手袋は学園で準備 会費 100円

場所：一畑電鉄・雲州平田駅 10時集合

担当：常賀信寛、坂根玄明

~~~~~  
わんぱく学園ニュース 発行元

NPO法人サポートセンターどりーむ

〒691-0031 出雲市東福町156-1

TEL & FAX : 0853-62-4872

\*お問い合わせ、わんぱく学園参加のことは上記までご連絡ください。

~~~~~

